

風間 ゆたか

あなたに寄りそう
東京をつくる。

世田谷区議会議員として14年。
僕は、ベネッセなど民間時代の知恵と経験を生かし
スピード感を持って教育行政や
子ども政策をバージョンアップさせてきた。

しかし、コロナ禍で見えた
社会の「格差」と「ほころび」を目の当たりにした僕は、
都政に挑む、そう決断した。

社会の弱さを支えたい。
あなたの役に立ちたい。

誰もが今、希望を持てる東京をつくります。

風間 穰(かざま ゆたか)

風間 穰(かざま ゆたか) プロフィール

- 1973年 東京生まれ
- 1991年 早稲田大学本庄高等学院卒 硬式野球部で4番キャッチャー・主将
- 1995年 早稲田大学政治経済学部政治学科卒 ラグビーサークルでロック
- 1995年 (株)ベネッセコーポレーション入社
- 2000年 (株)ウィル・シード 創業期に参画 2004年より取締役
- 2007年～ 世田谷区議会議員(4期目) 現在世田谷立憲民主党社民党幹事長

2003年から通算6年間、早稲田大学大学院非常勤講師(アジア太平洋研究科／スポーツ科学研究科)。大学生社会貢献塾主宰。趣味は料理、キャンプ、ピアノ。

妻と子ども3人
5人家族。
下馬在住。
48歳。



風間ゆたか

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

ストーリー

教育とともに。



母の死

僕は三人兄弟の長男で、小学校ではやりたい放題の問題児。先生には叱られっぱなしで、ずいぶん母を悩ませたものだ。その最愛の母が突然、大学4年生の時に胆嚢がんで亡くなる。



教育者だった父のうしろ姿

中学生になると少しずつ勉強もできるようになり、高校は早稲田大学本庄高等学院へ進学。中・高ともに野球部のキャッチャー、キャプテンで4番を担う文字通り「野球漬け」の生活だったが、高2の時、聖飢魔IIのコピーバンドを結成し本格的なメイクが街中の噂となったことも。高校教師だった父は、教え子の生き方を導くような、慕われる教師だった。教育者の父の目線は、僕の重要政策である子ども・子育ての根源に大きく影響している。「自分の人生を、思うように歩め」そう父は語り、僕は育ったのだから。

「真の教育とはナンだ？」 もがいたベネッセ時代

早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、ベネッセへ入社した。バイタリティだけは負けない異端児新入社員として、新チャンネル開発チームにも抜擢され日々充実していたが、2年で退職。

時給300円の ベンチャー創業時代

大学生就職支援事業に取り組んだ後、友人が起業した教育ベンチャー会社に参画。「教育を通じてよりよい世の中に」の理念に共感し、僕はがむしゃらに働いた。経産省の事業を受託し、体験型プログラム授業を全国の小中学校で行い会社を成長させるも、企業としてできる学校教育改革の限界を痛感し、6年で引退。政治家として「教育を一生のテーマにする」と決意し、33歳で初当選を果たす。

仕事も 家事も 育児も、 アタリマエ。

3人の子育てとは、なんとも大変である。仕事をしている妻と共に、家事・育児は分担が当たり前の我が家だが、子育ては「手伝う」なんて生ぬるいものではない！保護者会も僕が担当だけれど、「女らしく」「男らしく」の呪縛から僕を開放してくれた妻には頭が上がらない。



日々体当たりの青春時代！



病気のこと

ポジティブな僕も、政治家になって発症した「乾癬（かんせん）」には悩まされている。皮膚が毎日入れ替わり、肩に白く剥がれ落ちてフケのようで、清潔感がない。治療で丸坊主になり落ち込むこともあるが、この悩みも天が与えし試練だろう。



僕は料理も好き。世田谷区の「母親学級」に「両親学級」を追加したのも僕！

僕が都政にチャレンジする理由

今、大都市東京は限界なのに、急速なリカバリーが必要なのに、都政はどこを向いているのだろうか？

公教育でも、ICT化、不登校、教員の働き方改革、ブラック校則、都立高入試改革、公立校内申点問題など課題が山積みだ。僕は区議として、教育のプロフェッショナルとしてやってきたが、区政だけでは突破できない壁がある。だから僕は都政を目指す。未来に安心を提供し、子どもに重い負担を上乗せず、ポストコロナを見据えたジェンダー平等、教育改革、少子高齢化対策に大胆に予算を投じるために。

あなたが描く
未来のために、
僕は働きます。

風間ゆたか

